

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回 芦屋市女性活躍推進会議
日 時	令和 6 年 7 月 2 3 日 (火) 午後 3 時～4 時 3 0 分
場 所	芦屋市役所分庁舎 2 階 大会議室
出 席 者	会 長 中里 英樹 副 会 長 萩原 紫津子 委 員 勝部 尚樹、金丸 幸義、中村 馨乃信、丹羽 洋文、 橋野 浩美、須澤 美佳、赤松 良幸、新妻 佐奈江 欠席委員 渡利 綾子、三柴 哲也 (敬称略)
事 務 局	市民生活部長 大上 勉 市民生活部市民室主幹 (女性活躍支援担当) 小杉 頼子 市民生活部市民室人権・男女共生課長 竹内 浩文 市民生活部市民室人権・男女共生課男女共生係長 高松 靖子 市民生活部市民室人権・男女共生課主任 今泉 公佑 市民生活部市民室人権・男女共生課女性活躍コーディネーター 桐山 衣代
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者全員の賛成により決定した。 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の賛成が必要〕 ＜非公開・一部公開とした場合の理由＞
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部長あいさつ
- (3) 会議公開の説明・委員紹介
- (4) 議事：令和 5 年度女性活躍推進事業実績報告及び令和 6 年度実施計画
- (5) その他

2 提出資料

令和 6 年度第 1 回芦屋市女性活躍推進会議次第
女性活躍推進事業令和 5 年度実績報告・令和 6 年度実施計画
ASHIYA RESUMEプロジェクト2023プログラム一覧

3 審議内容

＝開会＝
＝部長あいさつ＝
＝委員紹介＝
＝事務局紹介＝
＝会長あいさつ＝
＝会議の公開について説明＝

＝議事＝

事務局／小杉：ここからは、中里会長に議事進行をお願いいたします。

中里会長：では、議事に沿って「令和５年度の実績報告と令和６年度の実施計画」について、事務局から説明いただきたいと思います。

●事務局より「令和５年度女性活躍推進事業実績報告・令和６年度実施計画」について資料に沿って説明

中里会長：先ほどの説明で私と勝部委員も参加したと言及いただいたパパタイムについてですが、なかなかお父さん同士の集まりで対話を促すのは難しいというのがずっと言われて来て、参加者も少ないとか、参加しても静まりかえっているという話を聞きますが、３、４回参加してみて、毎回非常に活発に交流されていると強く感じました。その理由や進め方について情報を補足すると、アドバイザーを招いてはいますが、その方の喋る時間をかっちり設けるというより、そこにおられて、お父さん達が話している会話の中に入ったり、少し短めに講演というか情報提供をすることでその後の話に繋げやすかったりしています。気楽にいつ来ていつ帰ってもいいという呼びかけもありますが、実際は来られただけでずっと留まっているという感じで、非常に気楽に参加して楽しく会話して帰っていいというのと、実践的に保育園探しの情報やお父さん同士の実質的な子育てに有益な情報交換もしているという場面をたくさん目撃しておりますので、プレパパが４、６月と参加が無かったとおっしゃっていましたが、これから余裕のある時に育休の取得を夫婦で話し合ったりする段階でも話を聞きに来るということも非常に有用であると思いますので、そういった宣伝もぜひ委員の皆さまの周辺でこれから子どもが生まれるという方がおられたら宣伝していただければと思います。非常に広々とした空間で遊具もたくさんあって遊べますし、リピーターの方は積極的に色んなアドバイスをしてくださっている感じですので、非常に良い集まりだと思っています。

勝部委員：今お話もありましたパパタイムですが、まさにこの部屋の壁を取っ払った所を会場にしていまして、数年前に始まって、その時の方が私はよく行っていたのですが、今は子どもも上の子が５歳になったのでちょっと対象年齢から外れて行き辛くなったので、見学というような形で参加しました。昔、私が参加していた時は本当にほぼ貸切りという感じで、こどもがずっと担当職員と遊んでいるという感じでしたが、今はやはり８組とか６組とか盛況になってきたのはとても良いことだなと思いました。

私の立場からも２点、男性の家事育児推進による女性活躍という形でお話ししますが、そのための活動としてちょっとイベント的なものが多いかなと感じました。例えば、料理教室もファザーリングジャパンの会員である洋食屋のシェフが講師として参加していますが、バースデーオムライスとかイベントのような、他にも「お父さんと遊ぼう」というようなタイトルで、遊びの相手としての父親というのが想定されているのかなと思いました。それがダメというわけではないのですが、普段の家事育児ができるかとか、以前ここでお話したのが、冷蔵庫の残り物でいかに料理ができるかとか、そういった支援が必要かなと思いました。

それから告知についてですが、このパパタイムは私が通っている保育園にもチラシが置いてありまして、やはりそういう所での告知はとても重要だなと思います。たまに保育園でも連絡帳に挟んでお便りやチラシが入る時があるのですが、そういう形で、特に気にしていなくても子育て世帯の父親に情報が入るという仕組みがあるとより良いなと思います。

中里会長：料理教室のところで重要なお指摘をいただきましたが、私も質問があります。防災料理という形で昨年も今年もされていますが、何か理由があるのでしょうか。勝部委員もおっしゃったように、防災の要素も入っていて良いと思うのですが、入口の段階でもう少し日常生活に役立つスキルというような呼びかけをしても良いのかなと思いました。タイトルの付け方の理由や意図があれば教えてください。

事務局／小杉：男女共同参画での視点での防災の取組というのを市民の皆さまに周知したいと強く思っているのですが、防災の講座というとあまり集客が見込めないのが、料理講座と併せています。講座の冒頭で防災における男女共同参画の視点について担当職員からご説明をして、それを踏まえて災害時でも簡単に作れるメニューを講師が考えてくださって実施しています。ただ、先ほど勝部委員からもご提案があったように、このようなイベント的なものより、冷蔵庫にある物でサッと作れるようになっていただきたいとも思いますので、その辺りは次年度以降、講師とも相談しながら企画していけたらと思います。

橋野委員：防災食の話が先ほど出ましたが、日常で作るものイコール防災食というのもあり得ます。結局、災害が起きた時に何もない、冷蔵庫にある物で作らないといけない、簡単に作れるというのとイコールだというのが見えたら、日常にも繋がるのではないかと思いますので、見せ方を考えたらいいと思います。

今、聞いていると参加者は結構増えてきたということですので、私たち活動を応援する者としては、参加者だけではなくて、その人が運営者になることを推していくというのがあります。来られているパパも、これは出来るというものを絶対お持ちだと思いたいで、「今回はどなたか喋ってくれないか」というように講師を回していく、自分たちの中で運営をしていくというように繋げていくと、そういう雰囲気のある方たちが増えてくるのではないかと思います。

金丸委員：防災がどうかではないですが、男女共同参画とか男性はこうしなきゃいけないというイベントになるとそれに興味がある人ばかりしか来なくなってしまうので、裾野を広げて色んな人に来てもらうという意味では、今回のように何かと何かというような真逆に触れているようなものと組み合わせる方がそちらに興味を引かれて来られる方がいるのではないかと思いますので、非常に良い取組だと思いました。

萩原副会長：先ほど勝部委員が、もうお子さんが大きくなったので行けていないとおっしゃいましたが、0～2歳というのは本当にあっという間で、それ以降はやっと手が離れて、より色々な情報交換ができたりするので、せっかく0～2歳でできた繋がりが3～5歳になっても繋がっていけるような取組があるといいなと思いました。また、橋野委員がおっしゃったように例えばメンバーの中でちょっとずつ自走して運営していただけるような働きかけがあると、より行政よりも市民主体の活動になるかなと思いますので、そのような方向性があってもいいかなと思います。

中村委員：ステップ相談の件で意見します。昨年度36件ということですが、今年度は11件でややペースダウン気味なのかなというのが気になります。さらに内容を精査しますと、昨年度だと就労と起業相談では、起業の方が圧倒的で2倍以上だったものが今年度では就労6件、起業4件ということで少なくなっていると。就労相談はこのペースで行くと昨年度実績より増えてくるのかなというところですが、起業したいという動機を持っている人が少し減っているというのが気になります。あと地域活動ですが、市の部署が違うと言えばそうなのですが、先ほど私は民生児童委員をしていると言いましたが、民生児童委員の方も定員割れしています。特に南浜の潮見中学校区の所では相当定員割れしていて、一人が2、3エリア兼務という所も出たりしていますので、そういうところも頭に入れて

おいてもらえたら助かります。

中里会長：今年度の起業の相談件数が少ないということですね。

事務局／小杉：なぜかは分からないのですが、思っている以上に就労に関するご相談が多くなっています。

萩原副会長：就労の機会が増えているということはないでしょうか。今まではコロナ渦でなかなか就職するというのが難しかったので、じゃあ起業という考え方が多かったのが、結構人手不足とか色んな所で起きて、チャンスが増えているのかなとも思いますが、どうですか。

須澤委員：実はうちの相談は増えている印象です。ひょっとしたら行政に相談してもフリーランスのことは知らないのではないかとこのころは多少なりともあるのではないかと思います。在宅ワークについて教えてもらえるとか、自分の今のスキルでできる在宅ワークは何かとか、これがしたいけどフリーランスがいいのかとか、そういうところを私たちはSNSで出しているのだから人たちはこういう人だと分かった上で相談に来るというのが大きいのかなと思います。どういう方がどういう相談に乗ってくれて、どういう形で回答しましたというところまで分かると、もっと行きやすくなるのかなと思います。

萩原副会長：チャレンジ相談は起業がとて多くて、ASHIYA RESUMEとかリードあしやとかも紹介しているのですが、その方たちがその後どうなったのかが気になるところで、行かれてそこからまた具体的にマルシェに参加されたとかそういうことがあれば、この相談をきっかけにこういう起業に繋がったとか地域活動に繋がったとかそういう事例があると皆さんもう少しイメージしやすいのかなと思いますが、その辺りの追跡調査みたいなことはされているのですか。

事務局／小杉：年度末には、無記名のアンケートで「その後どうされましたか」というご質問をしています。先ほどのご説明の中でもお伝えしましたとおり、ステップ相談のチラシの裏面に相談事例を載せたりしているのですが、やはり個人情報に配慮して、具体的にこういう相談をした人がこうなったというのは個人が特定されるかもしれないという問題もあるので、特定しにくくしているところもあります。今、お話を聞いていて思ったのは、具体的に相談をされて起業なり就職なりされた方について、その方の事例を取り上げて紹介しても良いかということでした承りいただけるのであれば、もっとそういう事をアピールできるかなと思いました。

赤松委員：県の方でも同じように相談事業やセミナー等をしていまして、起業の相談は多いです。セミナーの中でも起業関係のものは定員を超えて申込みがあります。今年ちょっと少ないということですが、女性の起業に対する熱というのは全然下がっていないのではないかと思います。あと、相談事業やセミナーの事業で、昨年度も課題で挙げられていましたが、やはり周知ですね。これは永遠の課題で、県も良いPR方法や周知方法が無いのか考えているのですが、ホームページとかSNSとかチラシを各施設に撒くとかそういうことしかできていません。質問ですが、ステップ相談に関する令和6年度の取組の中で、ASHIYA RESUMEの周知と合わせた相談カードを作成して周知を行うとありますが、相談カードというのはチラシのようなものでしょうか。

事務局／小杉：まだ作成していませんが、名刺くらいの大きさのもので、片面はリジューム、もう一方はステップ相談というような形で作成して、色々な場所で配架したり、色々

な機会に配布させていただいたりすることで、リジュームにも参加できるし、相談もできるということで合わせ技のようにできるのではないかと考えています。

中里会長：なるほど。相談の案内をするカードということですね。

事務局／小杉：そうです。

橋野委員：起業相談ですが、リードあしやの中で女性が20～30人集まって話し合いの場を持っているグループがあり、そこでは自分たちで考え、実際に起業している人たちがそこでアドバイスをしたりしながらやっています。だから、少なくともはなっていないのではないかと思います。飲食関係であればリードカフェを使いたいとか、あとは運営の方法の相談とかもたくさんあります。ここの講座で起業に関するセミナーとかもありますので、その後でチラシを配るということはされていないのですか。

事務局／小杉：配っていますし、相談員自らがPRもしています。

橋野委員：それが一番かと思います。一番身近なところでやっていくしかないのかなと思います。

金丸委員：今、たまたま「芦屋 起業」でネット検索すると、一番始めに出てくるのは、必ず創業支援、経営支援です。自分が女性で起業したいときに「芦屋 女性 起業」では検索しないかなと思いますので、女性まで入れると必ずリジュームとかに飛ぶのですが、「芦屋 起業」で入れると、どちらかと言うと地域経済振興課のページに飛ぶので、例えば課がまたぐと難しいのかもしれませんが、女性のステップ相談とかが、このページにリンクされていれば、芦屋市のホームページを見た時に、ステップ相談のように気軽に相談できるものがあるというところを周知できるのではないかと思います。そうすると起業の相談も増えてくるのかなと思いました。

須澤委員：そもそも起業相談を増やしたいですか。

金丸委員：たまたま相談件数が少なくなっているということでしたので、周知ということであれば、やりたい人はステップ相談というものを知る機会として一番表側が大事ではないかという議論かと思ひまして、そういう知る機会があれば同じ市の縦割りを外すだけで入ってくる人はいるのではないかと思います。

事務局／小杉：そういう相談ができるということを知らない人に届けたいという思いはありますので、起業相談を増やしたいというよりは、こういう相談を活用できるということをお知らせできるように、今ご提案いただいたようなことは検討してみたいと思っております。

須澤委員：ずっと言い続けていることなのですが、リジュームと男女共同参画が別物のような感じがしています。起業というと、リジュームを選ぶ人が多いのでしょうか。

事務局／小杉：リジュームの事業後にも、ステップ相談があるということを相談員自らがお話させていただいて、参加者の方もステップ相談を受けていただいたり、反対にステップ相談を受けた方にリジュームの事業をお知らせしたら、今回のsalonに参加して下さったりしているというのはあります。

須澤委員：行き来は結構あるということですね。

事務局／小杉：はい、あります。

須澤委員：分かりました。

中里会長：相談枠全体に対する申込みの比率や余裕はどれくらいですか。

事務局／小杉：ステップ相談というのは相談枠を作っていません。相談したい方に希望日時をお申込みいただいたら、こちらからお返事をして相談に至るという形です。もしご指定の日時で難しいようであれば、2、3ご提案させていただいて、その中から選んでいただくようにしています。

中里会長：現状で、どれくらい埋まっていますか。

事務局／小杉：まだまだ余裕があります。相談員は常時おりますので、こういった会議や事業でいない限りはお受けできますので、どんどん増えても大丈夫です。

中里会長：それであれば、更に周知を増やしていくのがいいと思います。

須澤委員：いつでもできるというのは、いつ行ってもいいやとなってしまう可能性はあると思います。例えば、スペシャルゲストを月1回呼んで、この人に相談できるよという日を作るというのもいいかなと思います。

事務局／小杉：その意味で、チャレンジ相談を年間4日設けています。

須澤委員：それ以外でもう一つ、起業やフリーランスの枠を設けるのはどうでしょう。特化している方が意外と相談しやすかったりするかもしれません。

萩原副会長：ターゲットを絞ったらいいかもしれません。起業の時は、広報の仕方とかに絞るとか。

中村委員：おっしゃっているのは、おそらく名称が女性のためのステップ相談だからといってすべての女性を対象ではなくて、生産年齢人口だと15～64歳だけど、そうではなく、さらに年齢層を絞ってサブタイトルでもう少し対象の年齢層が特定できるような名称を付けるということも考えられるのかなと思います。

新妻委員：今日初めて参加して、やはり女性が働く選択肢として、起業に流れて行っているのかなと感じました。他で聞いてもそれは感じるのですが、ハローワークはやはり雇用ということになるので、起業のことを相談いただいてもこちらではご案内できないということになります。本来の趣旨とは少し外れますが、雇用したい会社があって、それを繋ぐのがハローワークですが、他のセミナーに比べると、参加数も厳しくなっているかなと思います。相談の中でも就労希望という方も今年は多いと伺いましたが、そういう方が知りたいテーマとか、セミナーという形ではなくても雇用を希望する人がこういう情報を知りたいというのは何かあるのでしょうか。

事務局／小杉：今年の「就労」に分類している中には、今の働き方ではなくて、違う会社で働きたい、違う職種で働いてみたいというようなご相談もありました。

事務局／桐山：今の会社で働いていて、これよりもっとステップアップしたいという方も結構おられます。今所属している会社ではやり切ったので、次の仕事に変わってもう一つステップアップしていきたいという方がここ何年かで数名いらっしゃいますので、転職という意味での就労相談をお受けすることがあります。

事務局／小杉：ステップアップが「起業」ではなく、「就労」という形での変化を求めているというご相談が何件か続いているという感じです。

新妻委員：起業を希望する方は、どのような動機があるのでしょうか。

須澤委員：やりたいことがあるけれど、それが会社では実現できないから起業かなという感じの方がいらっしゃいます。

橋野委員：それと自由ですね。時間を自分で決められるから。小さいお子さんがいらっしゃるたりすると決められた時間というのがとても難しいということは相談でよく聞きます。

事務局／竹内：今世の中で収入源の多様化が重要だと言われていて、3つくらいにパターンを分ける方がいて、自分自身のタレント、つまり、講師のような活動と、事業と投資。勤め先があって雇用されているというのと、事業を自分で行うというのと、投資という3本くらいに分けて組みたいと考える方がいらっしゃるという話をよく耳にします。それで副業を認めてくれる会社を探しているという方も多くなって来ているというのがあるかと思えます。

須澤委員：女性で言うと、今の会社にいるだけだと、他の所に行ったときに実務スキルが通用しないのではないかという不安を抱えて、もう一つ何か柱を立てておきたいというリスクヘッジ的な感じもあります。スクールに通って資格を取得して、起業という方も多いです。また、ウェブスクールに通って、卒業後はそのままフリーランスになる方も。

また、私はサバイバルゲームに喩えているのですが、働くにあたっていろんな壁が立ちあがるんです。まず子どもが健康でなければダメとかサポートが無いと無理とか、保育園が無いと無理とか会社の理解が無いと無理とか色々あって、小学校になったと思ったら今度は不登校になったりとか。いつ何があるか分からないということで本当に不安を感じている方が多くて、何か持っておきたいという感じで資格を考える人が多いと思います。あとやはり、会社でもうずっとこの働き方なのかなと感じている時に、何か新しい自分を見つけない、「好きなことを仕事に」という言葉に影響を受けて、私も好きなことを仕事にしたいと思われる方もいます。

中里会長：それぞれのご経験から情報交換がなされて、質問し合っていていただいていると思います。

いくつかの事業に集中している感じもしますが、他はどうでしょうか。

萩原副会長：先ほど、(8)の起業講座の人气が高いとおっしゃいましたが、私は年に何回か来ていて、次の起業講座は無いかなと思った時に、終わってしまっていてなかなか参加できないことが結構あります。せっかくこうして人气がある講座はもう少し頻繁にできないのかなと思います。結構先になってしまうことが多いので。

事務局／小杉：(8)の講座は、日本政策金融公庫さんに全面的にご協力いただいて開催できているものです。

金丸委員：やりたいのは山々なのですが、やはり集客が一番実施側の課題としているところ
です。定期的にやりたいけれど、芦屋市さんと一緒にやる以上は集客をきちんとしないと
いけないという中で、結構窓口とか色んな所でしていますが、そこがもっと多様になると
か、定員が少なくても良いというような感じだと回数ができるかもしれません。

事務局／小杉：いつもは課長さんが講師をしてくださっていたのを今回は支店長自らが講師
を務めてくださって、例年以上に広報周知もしていただいたようで、たくさんお申し込み
をいただいて、相談会も盛況で良かったと思っています。

金丸委員：先ほどどなたかが話していましたが、(8)のイベントをする時に出来るだけそ
の後どうなったかをお伺いするようにしようねと。この17人から、起業に繋がった人が
いれば、芦屋市の相談会がきっかけで女性活躍のイベントに行って、お金が必要だったの
で公庫を利用して、今こんな感じでやっていますというのを聞けたらいいねと話していま
した。その時にはきちんと写真も撮って、次のイベントの時に、昨年こういう方がいまし
たよと紹介できれば、だんだんロールモデルが出来上がるので、裾野が広がっていつて私
にも出来るのではないかという風になるのではないかと思います。

芦屋市ではないのですが、たまたま7月の頭から終わりまで、西宮北口の図書館の一角
で公庫の創業の展示をしています。図書館側からすると、ビジネスの本が借りられる、そ
こでは大きく一人一人の全国で創業された方が「こんな思いで創業しました」というパネ
ルを展示していますので、また参考に見ていただければと思います。現状なかなか難しい
ですが、そういうことが芦屋から出来ると、女性活躍との連携になるかなと思います。

事務局／小杉：この講座に参加された方の中から、途中経過としてお二人くらいが起業に向
かわれているというご報告をいただいています。

金丸委員：もう少しお伺いしてみます。

中里会長：民間企業でも一つの成功例を使って大きく宣伝しています。実際に動かされた方は
そうやって載ったら宣伝にもなって喜ばれると思いますので、了承を得ていただいたら、
双方にメリットがあるのではないかと思います。

先ほど、副会長が言われたように、定員が少なくても頻繁にチャンスがある方が有効と
いう部分もあるかと思いますので、回数が増えると負担も増えるかとは思いますが、定員
の問題であればそこを調整できれば、より有効なのではないかと思います。

萩原副会長：タイミングを逃さず参加される方が増えるかもしれません。

事務局／小杉：今回ご紹介していますのは女性活躍推進事業ですが、同じメンバーで男女共
同参画の推進事業もしており、今すぐできますとは言いきいですが、他の事業との兼ね
合いや会議室の空き状況等を勘案して研究させていただきます。

丹羽委員：(3)、(8)、(10)は人気があるんですね。須澤さん、エクセルは人気がある
のですか。

須澤委員：私も多いのでびっくりしました。事務職に就きたい人とかなのでしょうか。

事務局／小杉：たまたま今週末土曜日にも、新しい講師で同じようにエクセルのパソコン講
座をさせていただくのですが、それも定員15名に対して20名くらいのお申し込みをいた

いただきましたので、結構ニーズがあるのかと思います。

須澤委員：元々スキルがなくて学びたいのか。

事務局／小杉：全く初心者の方は付いていくのがしんどいので今回は中級編にしています。以前に触っていて、しばらく触っていないけどまた就職するのにきちんと覚えたいとか、起業するのに使えた方がいいと考えているのか、またその辺りは来られた方に聞いてみようと思います。

丹羽委員：相談に来られる方もレベルに層があるのかなと感じますが、名称が分かりにくいというところがあるかもしれません。エクセルは基本的な部分で、意外に人気があるんだなと思いました。どちらかと言うと（10）のCanvaの講座の方がやりたい人が多いかなと思いました。

須澤委員：私もそう思いました。起業したい人もやるし、仕事にしたい人もやるし。

中里会長：多分エクセルが一番ニーズが分かりやすいというか、ニーズがありそうと見られやすいのかもしれません。

事務局／小杉：Canvaが何か分からない人は申し込みにくいと思うので、その辺りももっと分かりやすいようにお伝え出来たらいいかと思います。

橋野委員：広報に悩んでいる人が多いので、チラシデザインというのを出して、次にCanvaというのが出るといいかもしれません。

丹羽委員：それから、最初に記載されているお父さん向けのイベントに参加している方の目的を聞いてみたいなと思います。自分の妻は起業したくて、それを応援するぞという気持ちで来ているのか、内容が面白そうと思って参加しているのかどちらかなと思います。

事務局／小杉：目的までは分かりませんが、奥様に言われて来られたという方はいらっしゃいました。今回も申込みはたくさんありましたが、当日体調不良等で来られない方がいました。ほとんどの方は既にご自宅で料理をされたことがあるような感じでしたが、初心者の方もいらっしゃいました。

丹羽委員：これは元々、女性が活躍するために旦那さんがもっとサポートできるようになってもらうという間接支援のようなものだと思うので、それが上手くいけばいいなと思います。

事務局／小杉：それもありますし、男性自身を楽しんでお料理できるようになったらいいなという面もあります。

中里会長：相手の家事負担を減らそうというような内容は、参加者の方への説明には入っていないのですか。あくまでも男性が料理スキルを身に着けるためという感じですか。

事務局／小杉：そのような説明はしていません。

橋野委員：それが前面に出ると行きにくいかもしれませんね。

須澤委員：最近の30代くらいの男性は家事を普通にこなせる方が多いですね。

中里会長：でも30代くらいのお父さんにインタビューしていると、育休を取った人でも料理は苦手なので奥さんがやっていますというような話を若い方でも結構聞きます。日常的にするのはハードルが高いという人が多いような感触です。

勝部委員：育休も夫婦一緒に取るというケースが多いです。私はバトンタッチで完全に一人ずつ取りましたが、一人で取るとやらざるを得ないですが、一緒に取ると、遊び担当、料理担当みたいな分担になるケースが多いと思います。

中里会長：一人で取った人はやらざるを得ないし、元々出来ている人も多い。出来ているから任せられて一人で全部やってもらうということが出来ますが、一緒に取ると意識して自分が全部やろうと、特に産後の場合とか奥さんには何もしてもらわず全部自分でやろうという人はいますが、料理の部分はどうしても苦手だから任せるというケースは今でもあります。

須澤委員：（１）の料理講座の中で奥さんに無理矢理申し込まれたみたいな人はいませんか。お料理が得意じゃないとここに行って恥をかくのではないかと思う人もいないかと思います。そう考えると、ひょっとしたら３分で出来る料理講座とかハードルを下げた講座の方が自分でも出来るかもと思ってもらえるかもしれません。

橋野委員：役割分担は大事ですね。出来ないところは出来る人に任せて、自分は違うことをやるとか。夫婦やカップルで来て、そういうのを学んだ方がいいのかなと思います。

勝部委員：男性の家事育児の啓発ということで、どう分担するかという話し合いの講座やワークショップというのも一つあるかなと思います。男性育休は増えていますので、私の身の回りでも昔よりはるかに多く聞くようになったので、育休の体験談とかお金の管理の仕方とかそういう形での啓発活動があってもいいかなと思います。

中里会長：たくさん情報をいただきまして、かなり具体的な提案もありましたので、実現していただければと思います。

それでは、他に無ければこれで議事を終了します。今後の流れについて、事務局から説明をお願いします。

事務局／小杉：たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。議事の女性活躍推進事業につきましては、いただきましたご意見を活かしながら進めさせていただきたいと思います。

本会議は、今年度、今回のみの開催予定となっています。今後、今年度中に開催したい内容についてのご提案が委員どなたかからあった場合には、第２回の会議開催を検討させていただきます。

皆様の任期は来年３月３１日までとなっておりますが、参考までに来年度の予定をお知らせいたします。来年度の開催も今回と同時期に予定しております。内容といたしましては、今回と同様、前年度（令和６年度）の実績報告と当該年度（令和７年度）の実施計画となります。

本日の会議録につきましては、案ができ次第、皆様にお送りしますので、ご確認をお願いいたします。その後、市のホームページにて公開させていただきます。以上です。

中里会長：それでは、本日の会議を終了いたします。ありがとうございます。